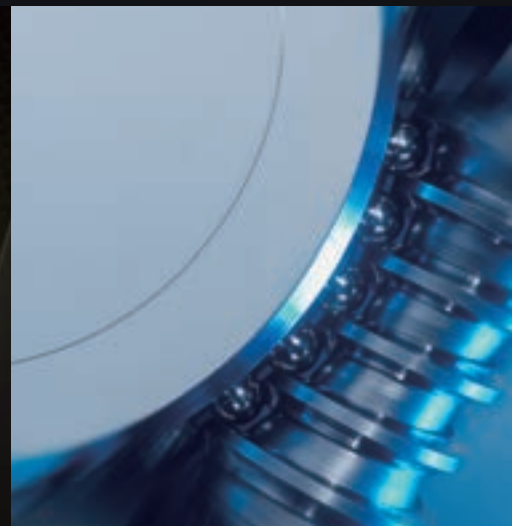


BUSINESS REPORT



株主の皆さまへ 第104期報告書

2013年12月1日から2014年11月30日まで

キーワードで知る津田駒

P4

26.6万台

世界の織物市場に26.6万台のジェットルームを送り出してきました。

津田駒工業株式会社



代表取締役会長
菱沼捷二
(ひしぬま しょうじ)

工作機械関連事業は回復傾向ですが 繊維機械事業の落ち込みが影響しました。

第104期報告書（2014年11月期）をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本年も不測の自然災害等でたくさんの皆さまが被災あるいは被害を受けられました。謹んでお見舞いを申し上げます。

Q 第104期の事業環境はいかがでしたでしょうか。

A 中国の繊維機械の設備投資が著しく低迷し大きな影響を受けましたが、工作機械業界は回復してまいりました。

第104期連結会計年度におけるわが国経済は、株価の回復や円安に伴う輸出関連企業の業績の改善など経済政策の効果が表れた反面、消費税増税や急激な円安の影響などのマイナス面も顕著となりました。世界経済においては米国経済が堅調に推移いたしました一方で、中国経済の減速が鮮明となり、加えてウクライナ問題や中東情勢など新たな不安定要素が表れてまいりました。

こうした中、当企業グループは繊維機械事業の安定化と工作機械関連事業、コンポジット機械など非繊維機械分野の拡大を目指し、受注の確保と売上の拡大に注力いたしました。

しかし、繊維機械事業では当初の予想に反して中心市

場であります中国市場で繊維製品市場の悪化と金融規制の影響を強く受けて設備投資が著しく低迷し、大きな影響を受けました。インドやインドネシア市場では、活発な商談が続きましたがL/C開設に時間を要しました。

工作機械関連事業では工作機械業界や自動車業界を中心に回復の傾向が鮮明になる中、当事業部門が手がけておりますNC円テーブルなどの装置分野でも回復が見られました。

コンポジット機械は2014年3月に開催されました世界最大の炭素繊維機械展示会に出展し、たくさんのお客さまから注目を集め引き合いをいただきました。今後、炭素繊維の製品市場の成長に伴い、当社の自動加工機械の需要は拡大するものと確信いたしました。

さて、本日開催いたしました取締役会におきまして高納伸宏氏が新たに社長に就任いたしました。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、私の社長在任中のご支援に心より感謝申し上げます。

連結業績ハイライト

受注高

30,724百万円
(前期45,616百万円)

売上高

34,735百万円
(前期41,177百万円)

営業損失(△)

△1,207百万円
(前期△512百万円)



代表取締役社長
高納伸宏
(たかの のぶひろ)

繊維機械事業の強化と工作機械関連、 コンポジット機械の拡大に注力してまいります。

この度、代表取締役社長に就任いたしました高納伸宏です。強い津田駒の復活を目指して一意専心努力してまいりますので、株主の皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

Q 就任にあたり、今の想いをお聞かせください。

A グローバルニッチトップ企業にも選定された優れた技術力をスピーディに展開してまいります。

当社には107年にわたり蓄積してきた優れた技術力とモノづくりの風土があります。歴史あるグローバル企業を率いる緊張感がありますが、津田駒の地力をスピーディに展開して、強い津田駒の復活を成し遂げます。新鮮な視点で当社の底力を発掘してまいりたいと思います。

Q 第105期の見通しについてお聞かせください。

A 繊維機械事業は後半には回復の兆しがあり、工作機械関連事業は拡大を期待しています。

世界経済は米国の景気回復が進むものの原油価格下落の影響、中国経済の減速など不透明感はぬぐわれず、その動向を注視しなければなりません。

繊維機械事業では、国内回帰による日本国内での投資が期待されるとともに、インドやインドネシア、さらにはベトナムなどの新興市場に対し、当社製品の強みであります省エネ性能や省人・省力化性能に優れた最新機種の販売を強化して、売上の拡大を図ってまいります。

工作機械関連事業では、新型NC円テーブルの販売拡大、日本の工作機械業界や米国の基幹産業（自動車・航空機・エネルギー・医療）への販売拡大、販売網の強化による海外需要の取り込みなどを図り、受注・売上の拡大を目指してまいります。

コンポジット機械では、炭素繊維の自動加工機械をCFRP部材の量産化をめざす関連業界にアピールし、事業の拡大を目指してまいります。

これらの対応を迅速に進めることで第105期は黒字化を見込んでおります。

新体制のもと今後とも業績の立て直しに向けて最大限の努力をしてまいりますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

経常損失(△)

△1,161百万円
(前期△606百万円)

当期純損失(△)

△1,263百万円
(前期△698百万円)

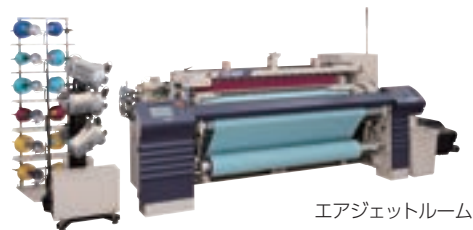
1株当たり当期純損失(△)

△19.77円
(前期△10.93円)

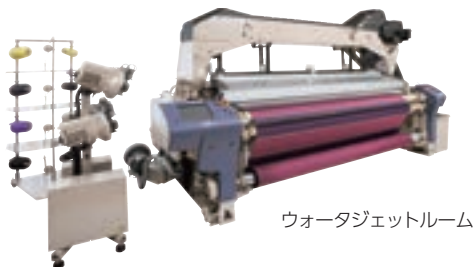
「グローバルニッチトップ企業100選」選定

当社は繊維機械のグローバル展開を認められ2014年に経済産業省が初めて行いました「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。この制度は、わが国経済の国際競争力の向上を確保していくため、グローバル展開に優秀と認められる実績がある企業を「グローバルニッチトップ企業100選」として選定するものであります。

当社が1909年の創業以来進めてまいりました繊維機械の革新において、新規参入の追従を許さない高度の機械・電子技術の集積で繊維機械の開発にあたり、グローバル展開を進めてまいりました実績を評価いただきました。また、繊維機械で培った要素技術を展開した炭素繊維の自動加工機械の開発も高い注目をいただきました。



エアジェットルーム

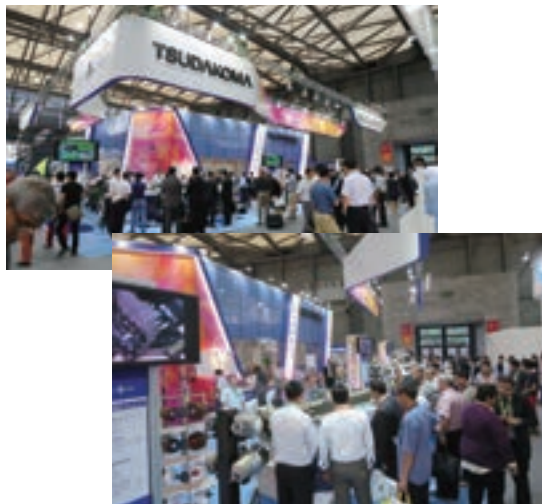


ウォータージェットルーム

ITMA ASIA+CITME2014（国際繊維機械展）に出展

当社は2014年6月に上海で開催されたITMA ASIA+CITME 2014に出展いたしました。

同展示会は世界最大の繊維機械展で、中国をはじめアジア各国からおよそ10万人が来場いたしました。当社は、高速安定稼働による高生産性ととも、市場の関心が高い省エネルギーや省人・省力化を実現する最新のジェットルームを5台出品いたしました。また、サイジングマシンを販売する株式会社T-Tech Japanや中国でジェットルーム生産を行っております現地子会社も出展し当社グループ一丸となって製品のアピールを行いました。



最新ジェットルームに関心が集った津田駒ブース



キーワードで知る津田駒

「26.6万台」

繊維機械、工作機械アタッチメントの分野では世界屈指のメーカーとなり、グローバル展開している津田駒。このページでは津田駒をより知っていただくために、キーワードをもとに、歴史や特長を紹介させていただきます。

ジェットルームという“部屋”を意味する“Room”を連想される方がよくいらっしゃいますが、津田駒が開発しているのは“Jet Loom”、すなわち噴射の力で織物を織る“織機”です。

津田駒は1909年の創業以来、シャトル織機、自動杼替織機、レピア織機と常に最先端の織機の開発を行ってまいりました。そして、1975年のジェットルームの開発以降は、中心市場が欧米や日本などの先進国から東南アジア、中国などの新興諸国へ移る中で、市場に最適な製品開発と市場対応を進め、常に厳しい価

格競争と技術開発競争にさらされながらも勝ち抜いて今日に至りました。

ジェットルームの最大の特長である高速・高生産性に加えて、コンピュータ制御による高い操作性、省エネルギーや省人・省力化の機能は、先進国市場のみならず繊維産業によって経済成長を図ろうとする新興諸国のお客さまの要求にも合致し、高い評価をいただいております。こうして世界各国に販売を進めてまいりましたジェットルームの販売実績は、26.6万台を数えるまでになりました。



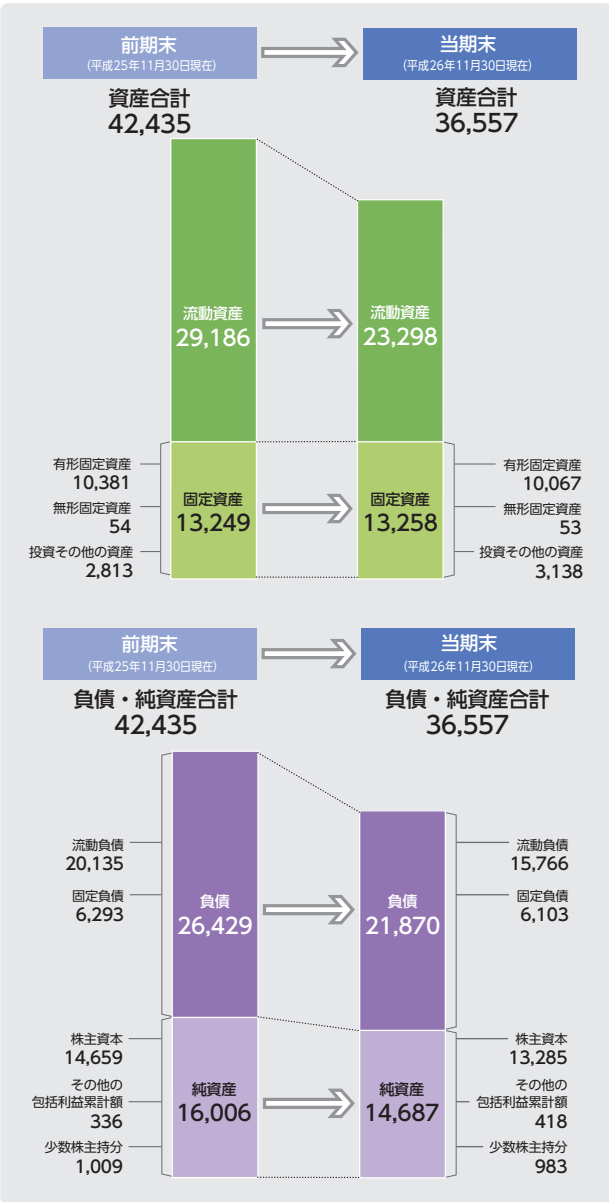
ジェットルームはさまざまな種類の織物を、高速・高品位で製織します



最新の電子制御で使い易さと高性能を実現します

連結財務データ

連結貸借対照表 (単位：百万円)



科 目	前 期 平成25年11月30日現在	当 期 平成26年11月30日現在
資 産 の 部		
流動資産	29,186	23,298
固定資産	13,249	13,258
有形固定資産	10,381	10,067
無形固定資産	54	53
投資その他の資産	2,813	3,138
資 産 合 計	42,435	36,557
負 債 の 部		
流動負債	20,135	15,766
固定負債	6,293	6,103
負 債 合 計	26,429	21,870
純 資 産 の 部		
株主資本	14,659	13,285
その他の包括利益累計額	336	418
少数株主持分	1,009	983
純 資 産 合 計	16,006	14,687
負債純資産合計	42,435	36,557

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (単位：百万円)		
科 目	前 期 平成24年12月 1日から 平成25年11月30日まで	当 期 平成25年12月 1日から 平成26年11月30日まで
売上高	41,177	34,735
営業損失 (△)	△ 512	△ 1,207
経常損失 (△)	△ 606	△ 1,161
税金等調整前当期純損失 (△)	△ 612	△ 1,151
少数株主損益調整前当期純損失 (△)	△ 658	△ 1,287
当期純損失 (△)	△ 698	△ 1,263

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

財務のポイント

資産、負債及び純資産の状況 … 当期末の総資産は、前期末に比べ5,878百万円減少し36,557百万円となりました。主な増減は、売上の減少による売上債権の減少であります。負債は、前期末に比べ4,559百万円減少し21,870百万円となりました。主な増減は、生産の減少による仕入債務の減少によるものであります。純資産は、当期純損失1,263百万円を計上したことなどから前期末に比べ1,319百万円減少し14,687百万円となり、自己資本比率は37.5%となりました。

損益の状況 … 繊維機械事業では当初の予想に反して中心市場であります中国市場で繊維製品市場の悪化と金融規制の影響を強く受けて、設備投資が著しく低迷し、大きな影響を受けました。工作機械関連事業では工作機械業界や自動車業界を中心に回復の傾向が鮮明になる中、当事業におきましても受注・売上の回復が見られましたが、期待した伸びには至りませんでした。

この結果、全体では受注高は30,724百万円(前期比32.6%減少)となりました。売上高は34,735百万円(同比15.6%減少)にとどまりました。

損益面では生産・売上の減少が大きく影響し、営業損失1,207百万円(前期 営業損失512百万円)、経常損失1,161百万円(前期 経常損失606百万円)、当期純損失1,263百万円(前期 当期純損失698百万円)と誠に遺憾ながら損失計上を余儀なくされました。



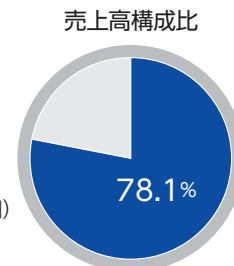
事業別の状況

繊維機械事業



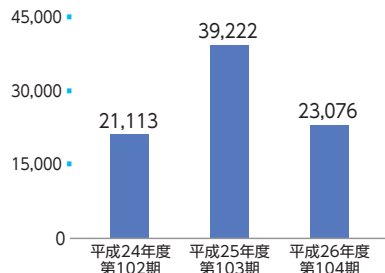
世界最大の国際繊維機械展に出品した最新型エアジェットルームZAX9200

受注高 **23,076** 百万円 (前期比41.2%減少)
売上高 **27,121** 百万円 (前期比21.9%減少)
営業損失 **523** 百万円 (前期は営業利益403百万円)



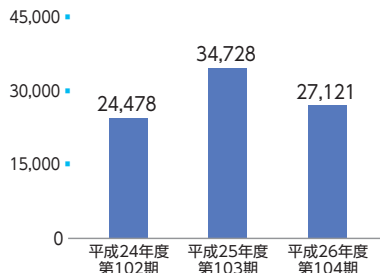
受注高

(単位: 百万円)



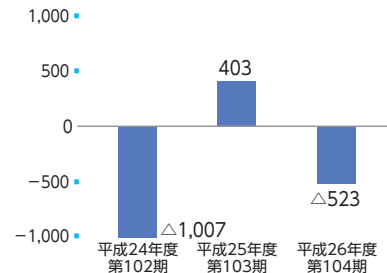
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)



ツダコマの主な製品

繊維機械

エアジェットルーム・ウォータージェットルーム

水や空気の噴射力を使って緯糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上の緯糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。



タオル地を超高速で製織するエアジェットルームZAX9200Terry

工作機械関連事業



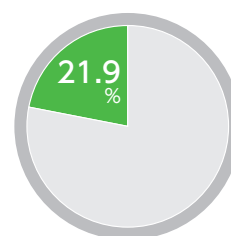
新しい駆動機構を搭載した新型NC円テーブル

受注高 **7,648** 百万円 (前期比19.6%増加)

売上高 **7,613** 百万円 (前期比18.1%増加)

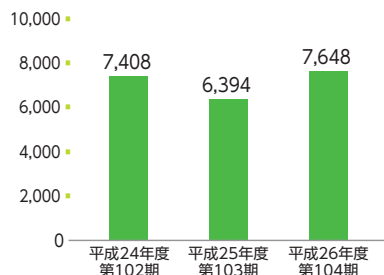
営業利益 **375** 百万円 (前期比139.2%増加)

売上高構成比



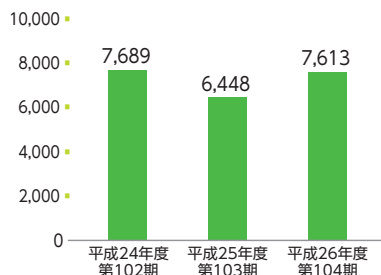
受注高

(単位：百万円)



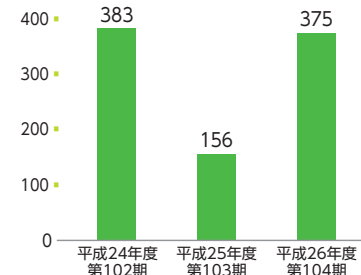
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)

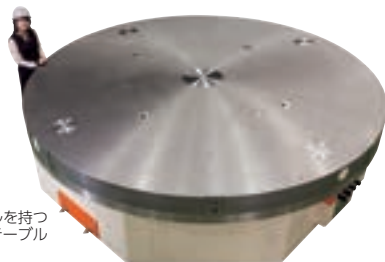


工作機械関連

NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

人気の携帯電話から航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。

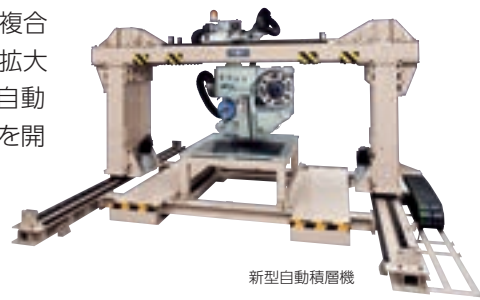


直径4mの回転テーブルを持つ
超大型NC円テーブル

コンポジット機械

炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



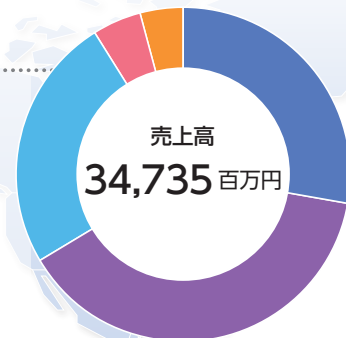
新型自動積層機

地域別の状況

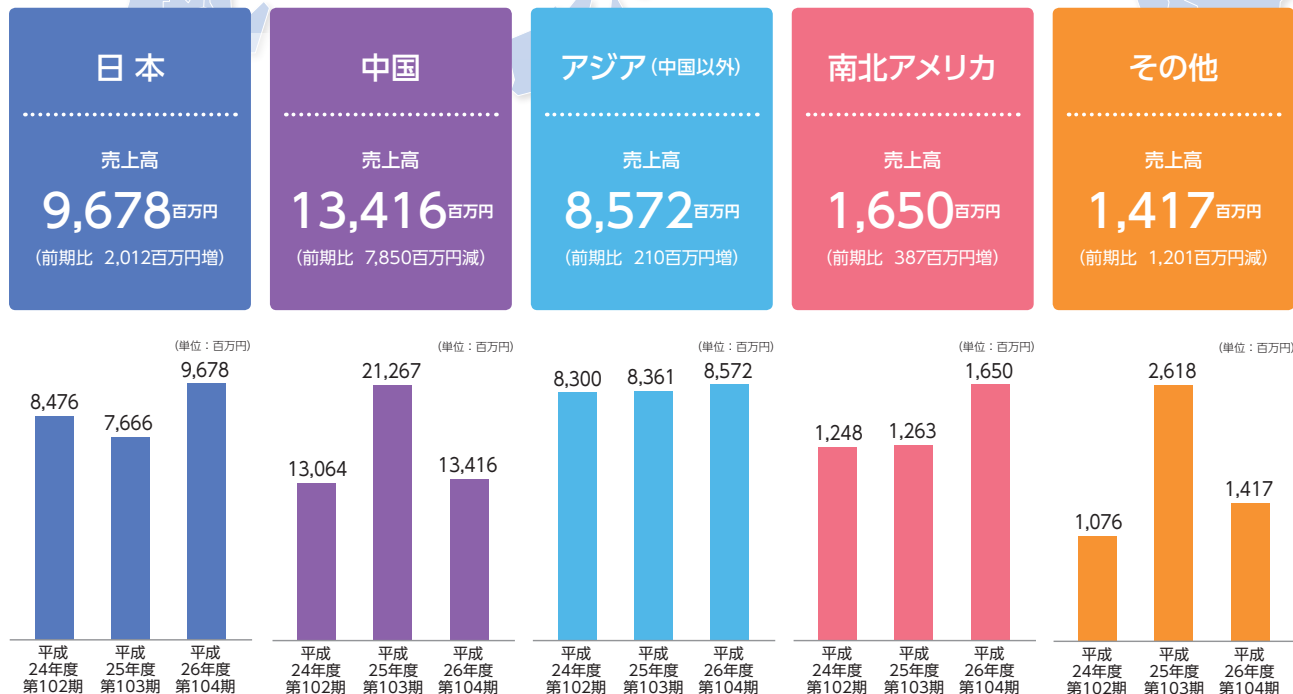
繊維機械事業では、中国が最大の市場です。その他ではインド、インドネシア、パキスタンなど、アジア圏の市場が主な市場です。工作機械関連事業では、国内の工作機械業界向けを中心に、自動車・航空機・エネルギー・医療など基幹産業が堅調な北米市場や、電子機器や自動車産業が堅調な中国、韓国、台湾などのアジア市場が主要市場となりました。

所在地別売上高構成比

日本	27.9%
中国	38.6%
アジア（中国以外）	24.7%
南北アメリカ	4.8%
その他	4.0%



グラフで見る所在地別の売上高推移



会社概要

本社所在地	〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号	資本金	123億1,654万円
設立	昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）	従業員	925名

役員の状況（平成27年2月末日現在）

代表取締役会長	菱沼捷二	津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長
代表取締役社長	高納伸宏	コンボジット事業担当、中国生産推進本部 本部長
専務取締役	竹鼻達夫	総務部門担当、総務部長、知財・情報管理部長、輸出管理室長、中国生産推進本部 副本部長、 ふぁみーゆツダコマ株式会社 代表取締役
常務取締役	西野順一	工作機械関連事業担当
取締役	中村進	共和電機工業株式会社担当、共和電機工業株式会社 代表取締役
取締役	諏訪満	新製品推進室長
取締役	松任宏幸	繊維機械事業担当、繊維機械販売部長、中国生産推進本部 副本部長、津田駒機械設備（上海）有限公司 担当、 津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、株式会社T-Tech Japan 代表取締役
常勤監査役	越馬進治	
常勤監査役	竹中隆	
監査役	澁谷進	（澁谷工業株式会社 取締役副会長）
監査役	梶政隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
執行役員	松本勝	工機販売部長
執行役員	橋本徹	品質保証部長
執行役員	坂井一仁	コンボジット機械部長
執行役員	大森充	工機技術部長
執行役員	大山茂生	繊維機械技術部長、中国生産推進本部 副本部長
執行役員	北野浩司	製造部長、製造部製造第1部長

株式の概況（平成26年11月30日現在）

株式の状況

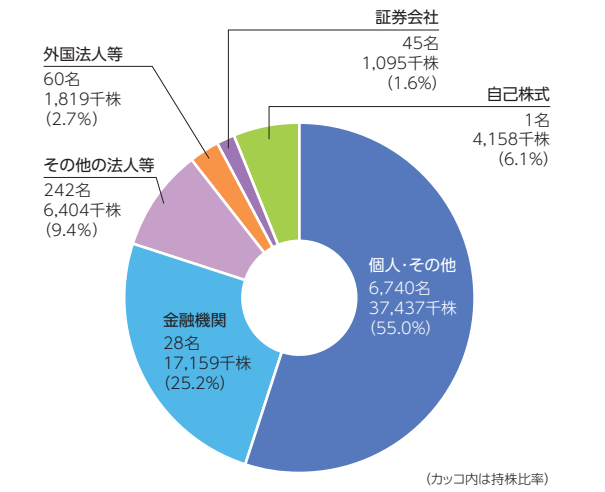
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
（内自己株式の数）	（4,158,635株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	7,116名

大株主の状況

株主名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	9,005
明治安田生命保険相互会社	3,510
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
ツダコマ従業員持株会	1,582
丸紅株式会社	1,023
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	884
越馬純一	554

（注）当社の保有する自己株式4,158千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況





株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国 各支店で行っております。

ホームページのご案内

<http://www.tsudakoma.co.jp/>